



Tourism Resilience

観光レジリエンスサミット
活動報告書

2024.11.9(土) ▶ 11.11(月)



仙台市長 郡 和子

2024年11月9日から11日までの3日間、仙台市において観光レジリエンスサミットが開催され、多くの皆様からのご支援のもと、成功裏に終了することができました。

閣僚級会合では、自然災害や感染症等の危機に対する観光分野の強靱性をテーマに議論が行われ、本市からは復興の歩みや防災の取り組み、新たな賑わいについてご紹介し、震災の教訓を世界に発信いたしました。会合の成果として、観光レジリエンスの向上に向けた今後の取り組みの方向性を示す「仙台声明」が採択され、東日本大震災を経験し、防災環境都市づくりに取り組む本市として、「仙台防災枠組2015-2030」に続き、仙台の名を冠した声明が取りまとめられたことは、大変意義深いものと考えております。

また、本市主催の歓迎レセプションやエクスカーションでは、仙台・東北の食や祭り、文化によるおもてなし、海浜エリアへの視察を行い、仙台・東北の豊かな観光資源をPRいたしました。参加者の皆様からはご好評の声があり、仙台・東北の多彩な魅力を実感いただけたものと大きな手応えを感じております。

今回の会合を踏まえ、本市の観光レジリエンスをより一層高め、誰もが安心して滞在・観光できる持続可能な地域づくりを推進することで、交流人口の拡大による地域経済の発展につなげてまいります。

結びに、開催にあたり多大なご協力をいただきました観光庁の皆様をはじめ、地元関係者の皆様、語学ボランティアや市民の皆様、警備や消防、医療等にご対応いただいた皆様、その他関連事業等においてお力添えを賜りました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

ごあいさつ	2
第1章 観光レジリエンスサミットの概要	4
1. 観光レジリエンスサミットとは	5
2. 会合参加者	6
3. 会合日程	7
4. 閣僚級会合	8
5. 公式行事 ■シンポジウム(観光庁、UN Tourism駐日事務所主催)	9
■歓迎レセプション	10
■昼食会(観光庁主催)	12
■エクスカーション	13
第2章 本市の取り組み	15
1. 地元連絡会の開催	16
2. 会合開催支援 ■主催者との連絡調整 ■警備・救急・消防体制・衛生対策等	17
■語学ボランティア	19
3. 歓迎事業の企画・運営 ■AOBAYAMA MORNING/サミット開催記念講演会	21
■PR展示ブース	22
■会合参加者への記念品 ■PR用配布物	25
4. 情報発信・PR ■シティドレッシング(市内装飾) ■カウントダウンボード設置	26
■市政だより掲載 ■仙台市ホームページ	27
■河北ウィークリーせんだい ■子ども記者 ■仙台・未来創造フォーラムでのPR	28
5. 観光危機管理マニュアル	29
第3章 資料集	31
1. 観光レジリエンスサミット閣僚級会合 共同声明(仙台声明)	32
2. 会場図	36
3. 開催の歩み、市の予算・決算	38
4. 掲載記事一覧	39
参考文献	42



Tourism Resilience

第1章 観光レジリエンスサミットの概要

1. 観光レジリエンスサミットとは



- 会議名称 Tourism Resilience Summit
観光レジリエンスサミット
- 開催日程 11月9日(土)～11日(月)
- 主催 観光庁
- 協力 世界観光機関 (UN Tourism)
- 会場 仙台国際センター、伝承千年の宿 佐勘(以下「佐勘」という)
- 参加者 アジア・太平洋地域の10か国、7つの国際機関合わせて約100名
- テーマ 自然災害やコロナ等の危機に対する観光分野の強靱性(レジリエンス)の強化
※ アジア・太平洋地域の枠組みにおいて、観光レジリエンスをテーマにした初めての閣僚級会合
- 開催地選定の背景 仙台市が東日本大震災からの復興に取り組んでいること、2015年に開催された第3回国連防災世界会議において「仙台防災枠組 2015-2030」が採択された地であることなど

□ ロゴマーク（観光庁作成）



- ▶ レジリエンスの「回復力」と「強靱性」がもたらす無限の可能性により、観光における活力が再生し、途切れることなく循環し継続していくよう願いが込められています。
- ▶ 複数の線は、観光レジリエンスに関わる人々・組織をはじめ、さまざまな関係者がこの問題に取り組んでいく強い意志を表現しています。



議長 ④ 日本 齊藤鉄夫 国土交通大臣

開催市 ③ 仙台市 郡和子 仙台市長

参加国

- ② フィジー ヴィリアメ・ンガヴォカ 副首相 兼 観光・航空大臣
- ⑥ マレーシア ティオン・キン・シン 観光・芸術・文化大臣
- ① パプアニューギニア ベルデン・ノルマン・ナマ 観光芸術文化大臣
- ⑦ ラオス ダラニー・ポムマヴォンサー 情報文化観光省 副大臣
- ⑫ 韓国 キム・ジョンフン 観光政策局 局長
- ⑬ 東ティモール アントニオ・ダ・シルバ 観光・環境省 局長
- ⑭ パラオ クリスチャン・ニコレスク 在京大使館 公使

国際機関等

- ⑪ フィリピン ニエル・バレステロス 在京大使館 アタッシェ
- 中国 ワン・ウェイ 在京大使館 アタッシェ ※歓迎レセプション、昼食会、エクスカーションに参加
- ⑤ 世界観光機関(UN Tourism) ゴリッツァ・ウロセヴィッチ 上級部長
- ⑮ 世界観光機関(UN Tourism)駐日事務所 本保芳明 代表
- ⑩ 国連防災機関(UNDRR)神戸事務所 松岡由季 代表
- ⑯ 太平洋アジア観光協会(PATA) パベンシュ・クーマ 持続可能性・研究部長
- ⑧ 日本観光振興協会 富田哲郎 副会長
- ⑨ 日本旅行業協会(JATA) 高橋広行 会長
- ⑰ 日本政府観光局(JNTO) 蒲生篤実 理事長

3. 会合日程

日時		行事		場所
		観光庁主催	仙台市主催	
1日目 11/9 (土)	午前		AOBAYAMA MORNING サミット開催記念講演会	青葉山公園 仙臺緑彩館
	午後	シンポジウム (UN Tourism駐日事務所共催)		仙台国際センター
			歓迎レセプション	佐勘
2日目 11/10 (日)	午前	フォトセッション 閣僚級会合		仙台国際センター
	午後	昼食会 記者会見		仙台国際センター
		公式エクスカーショ (1泊2日の1日目)	公式エクスカーショ (半日)	東北各地
3日目 11/11 (月)		公式エクスカーショ (1泊2日の2日目)		東北各地

二国間会談(随時)

展示ブース(佐勘)



日時: 11月10日(日) 9:15~12:15

会場: 仙台国際センター展示棟 展示室2、展示室3

閣僚級会合では、自然災害やコロナ禍を経て、観光分野の脆弱性が浮き彫りとなるなか、観光の抱えるリスクによる経済・社会への影響の増幅が予測されるため、観光レジリエンスという概念の重要性が再確認されました。

観光産業の復興・回復にかかる各国および関係機関の取り組みや経験、知見の共有と議論が行われ、観光レジリエンスの向上に向けた今後の取り組みの方向性をまとめた共同声明(「仙台声明」)が採択されました。(全文は資料集に掲載)

□ 仙台市長による基調講演



郡市長より、「東日本大震災からの復興と安全安心な観光の推進」をテーマに基調講演を行いました。

講演では、本市における観光レジリエンスの向上に資する取り組みとして、東日本大震災からの復興の歩みをはじめ、震災の経験を踏まえた防災環境都市づくりや、東部海浜エリアの新たな賑わい創出に向けた取り組み、危機管理マニュアルの整備等を各国および関係機関に紹介しました。

□ 二国間会談(観光庁実施)

閣僚級会合に合わせ、観光庁と参加国代表による二国間会談が実施されました。

5. 公式行事①－シンポジウム(観光庁、UN Tourism駐日事務所主催)－



日 時: 11月9日(土) 14:00～17:00
 会 場: 仙台国際センター会議棟「萩」
 主 催: 観光庁
 UN Tourism駐日事務所
 参加者数: 会場 約100名(他、オンライン配信あり)

観光分野における災害対策の事例等を共有し、観光レジリエンスの重要性の再認識と具体的な取り組みの実践を促進することを目的にシンポジウムが開催されました。

地元からは、高橋副市長による開催地挨拶のほか、(公財)仙台観光国際協会や東北大学災害科学国際研究所等がパネリストとして登壇し、仙台における観光危機への備え等について発表がありました。

プログラム	
● 開会挨拶	- 観光庁観光政策特別研究交渉官 村上 強志 氏 - 世界観光機関(UN Tourism) 持続可能な観光及びレジリエンス部長 Dirk Glaesser 氏 - 仙台市副市長 高橋 新悦
● 基調講演	「地球のレジリエンス(強靱性)向上のために－仙台防災枠組の実施と観光レジリエンス－」 国連防災機関(UNDRR)駐日代表 松岡 由季 氏
● パネルセッションⅠ	「観光危機発生時への備え－観光客・旅行者の安全と安心を確保するために必要なこと－」 モデレーター: 観光レジリエンス研究所代表 高松 正人 氏 パネリスト: - PATA 持続可能性及び研究部長 Pavnesh Kumar 氏 - 国土交通省気象庁仙台管区気象台気象防災部長 塚本 尚樹 氏 (公財)仙台観光国際協会理事長 結城 由夫 氏 - 和倉温泉加賀屋支配人 道下 範人 氏
● パネルセッションⅡ	「危機後の事業継続と復興への備え－観光地・観光事業者への影響を最小限にするために必要なこと－」 モデレーター: 観光レジリエンス研究所代表 高松 正人 氏 パネリスト: (公社)日本観光振興協会常務理事 内山 尚志 氏 - 東日本旅客鉄道(株)マーケティング本部 くらしづくり・地方創生部門長 沢登 正行 氏 - 東北大学災害科学国際研究所教授 丸谷 浩明 氏 - カリブ地域災害緊急管理機関(CDEMA) JICAカリブ地域総合防災アドバイザー 松村 直樹 氏
● 閉会挨拶	UN Tourism 駐日事務所 副代表 大宅 千明 氏

5. 公式行事②－歓迎レセプション－



日 時：11月9日(土) 19:00～21:00
 会 場：佐勘「辻が花」(代表者)、「松雲」(随行者)
 主 催：仙台市
 参加者数：代表者会場 41名、随行者会場 30名程度

【プログラム】

- 開会挨拶 郡 和子 仙台市長
- 乾杯挨拶 嵯川 直也 観光庁長官
- 仙台フィルハーモニー管弦楽団による演奏
- 和太鼓演奏
- 仙台すずめ踊り演舞、体験
- 閉会挨拶 橋本 啓一 仙台市議会議員

歓迎レセプションでは、仙台・東北の旬の食材を用いた料理や地酒、震災からの復興に尽力した仙台フィルハーモニー管弦楽団や伝統芸能により魅力を発信しました。仙台すずめ踊りでは、参加者に踊りの体験をお楽しみいただき、終了後には演者と記念撮影を行うなど好評を得ました。

【メニュー】

会合期間中における他の食事の機会とのメニュー重複を避け、地元の食の魅力を効果的にアピールするため、観光庁等と調整を行いました。
 また、食事制限のある参加者には、個別に特別メニューを用意しました。

代表者会場(正餐形式)

- | | |
|---------------------------|---|
| 料理 | ● 東北の彩り -フードアート- 海老の山椒オイル和え
帆立の燻製 大根 胡瓜 紅心大根 ラディッシュ 紫芋
紅はるか 渦巻きビーツ 豆腐ペースト ひよこ豆
青えんどう豆 赤いんげん豆 マイクロリーフ マイクロトマト
エディブルフラワー 玉葱ドレッシング |
| | ● 蕪のすり流し 甘鯛松笠焼き 焼玉ねぎ 仙台雪菜 柚子 |
| | ● 三陸塩竈ひがしもの(鮭) みやぎサーモン |
| | ● 三陸産 鮑とフカヒレのステーキ |
| | ● 牛たん旨煮 蓮根 里芋 花人参 ブロッコリー |
| | ● 柚子窯焼き 宮城県産牡蠣のオイル漬け |
| | ● 宮城県丸森町産 無花果の揚げ出汁 |
| | ● 飾り寿司 三陸塩竈ひがしもの(鮭) 真鯛
木耳の佃煮胡麻巻き 豆苗のカラスミロール |
| | ● 秋の実り and パフェ 柿 和栗 メロン 和栗アイス あんこ
米菓子 シリアル 煎餅 生クリーム 黒蜜 他 |
| | お酒 |
| ● 日本酒 : 純米吟醸 Pulito(山和酒造) | |
| ● ウイスキー: 伊達(ニッカウヰスキー) 他 | |



随行者会場(着席ビュッフェ形式)

- | | |
|----|--|
| 料理 | ● 牛たん、焼き三角油揚げ、餅湯葉と仙台雪菜の餡かけ、
亘理荒浜水揚げしじみラーメン、のつけ寿司、鰹の叩き、
天婦羅、焼き鯖とセリのお浸し、フカヒレスープ、
仙台金時のスイートポテト 他 |
| | ● 日本酒: わしが國(山和酒造)、
ワイン: Akiu Merlot 2021(秋保ワイナリー) 他 |



5. 公式行事③－歓迎レセプション－



郡和子市長 開催地代表挨拶



萩川直也観光庁長官 乾杯挨拶



歓談の様子



歓談の様子



仙台ずめ踊り



仙台フィルハーモニー管弦楽団



和太鼓演奏



仙台ずめ踊り体験



橋本啓一仙台市議会議員 閉会挨拶

5. 公式行事④－昼食会(観光庁主催)－



日時: 11月10日(日) 12:30～14:00
 会場: 仙台国際センター 会議棟「桜」
 主催: 観光庁

【プログラム】

- 開会挨拶 齊藤 鉄夫 国土交通大臣
ゾリツツァ・ウロセヴィッチ UN Tourism 上級部長
- 乾杯挨拶 郡 和子 仙台市長
- 奥州・仙台 おもてなし集団 伊達武将隊パフォーマンス
- 「まゆかり」(仙台出身の姉妹ユニット)による津軽三味線の演奏
- 東北観光PR動画放映
- 閉会挨拶 栲川 直也 観光庁長官

【メニュー】

代表者用(正餐形式)

- 山形県産『最上鴨』(合鴨)のローストとテリーヌ
- 宮城県石巻産『鯖』と青森県産『スルメイカ』のアクアパッツァ
- 塩麴でマリネした『仙台牛』の炭火焼き黒酢ソース
- 宮城県産『銀鮭』の宮城名物『はらこ飯』
- 青森県産『りんご』のコンポート 他



乾杯酒
 「一ノ蔵 発泡清酒 すず音」

随行者用(着席ビュッフェ形式)

福島県 郡山 鈴木農場から届く野菜のサラダ 仙台味噌ドレッシング、
 秋田県産『比内地鶏』と仙台伝統野菜『仙台曲がりねぎ』のプロシエツト、
 岩手県産『岩中豚』のコンフィ 青森県産『りんご』のキャラメリゼ、
 『山形牛』で仕上げる山形芋煮、宮城県産『JAPAN X』と時季野菜の黒酢スプタ、
 仙台名物『牛たん』入りチャーハン、山形県産シャインマスカットのタルト 他



5. 公式行事⑤ーエクスカーショナー

昼食会終了後、一部の会合参加者は東北各地を訪れるエクスカーショナーに参加しました。

■ 半日コース

日 時: 11月10日(日) 午後

主 催: 仙台市

訪 問 先: 震災遺構 仙台市立荒浜小学校～JRフルーツパーク仙台あらはま～鐘崎総本店 笹かま館～仙台うみの杜水族館～秋保ナイトミュージアム

参加者数: 14名

(フィジー、マレーシア、パプアニューギニア、韓国、東ティモール)

□ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校



震災当時、荒浜小学校に避難した経験を持つ現地ガイドによる案内のもと、被災した校舎を見学したほか、避難から救助までの証言をまとめた動画を視聴しました。



□ JRフルーツパーク仙台あらはま



旬のりんご狩りを体験した後、研修棟にて海浜エリアの事業者等から賑わい創出について説明を受けました。



□ 鐘崎総本店 笹かま館



地元の名産として有名な笹かまぼこについて、魚のすり身の成型から焼き上げまでを行う手作り笹かま、食品サンプルづくりのいずれかを選択して体験しました。



5. 公式行事⑥ーエクスカーシオンー

□ 仙台うみの杜水族館



復興を象徴する水族館にて、三陸の海を再現した大水槽の前で夕食会を実施しました。マイワシの群れが躍動的に泳ぐショー「Sparkling of Life」をご覧いただいた後、藤本副市長による乾杯の挨拶で会が始まり、和やかな雰囲気の中で仙台・東北の食をお楽しみいただきました。

【メニュー】

料理

- 合鴨の幽庵焼きと仙台雪菜のおひたし
- 気仙沼産メカジキのフリット タルタルソース添え
- 宮城県産森林鶏の有馬山椒焼きと仙台曲がりねぎ
- 石巻産ヒラメのカルパッチョ
- 仙台牛のビーフシチュー
- 寿司盛り合わせ(いか、すずき、宮城サーモン等)
- 仙台名物 麻婆焼きそば
- 仙台いちごを使用したクロカンブッシュ風 他



お酒

- ワイン：高畠醸造ブラン白辛口(高畠ワイナリー)、かみのやまカベルネソーヴィニヨン(サントネージュワイン)
- 日本酒：純米吟醸 浦霞禅(佐浦)、特別純米酒 一ノ蔵(一ノ蔵)
- ウイスキー：宮城峡、伊達(ニッカウヰスキー) 他

□ 秋保ナイトミュージアム(天守閣自然公園)



秋保石で構成された美しい日本庭園と秋限定でライトアップされた紅葉のなかを散策しました。当日は、天守閣自然公園によるおもてなしメッセージが岩に投影されました。

■ 1泊2日コース(観光庁主催)

日時：11月10日(日)～11日(月)

主催：観光庁

訪問先：岩手・宮城コース…世界文化遺産平泉(岩手県)、松島(宮城県)他
宮城・福島コース…仙台城跡(仙台市)、鶴ヶ城(福島県)他





第2章 本市の取り組み



観光レジリエンスサミットの成功に向け、受け入れ環境やおもてなし環境の整備、開催機運の醸成等にかかる協力体制の強化を図ることを目的に、地元の関係機関・団体の皆さまとの準備状況の情報共有や意見交換を行う地元連絡会を開催しました。

地元の皆さまと密に連携しながら、本サミットの円滑な開催を支援するとともに、仙台・東北の魅力や防災環境都市としての取り組みの効果的な発信等を行いました。

□ 名称

観光レジリエンスサミット地元連絡会

□ 構成団体(15団体)

- 仙台市
- 東北運輸局
- 宮城県
- 宮城県警察本部
- 第二管区海上保安本部
- 仙台商工会議所
- (一社)仙台経済同友会
- 東北大学災害科学国際研究所
- 東日本旅客鉄道(株)東北本部
- 仙台国際空港(株)
- (一社)東北観光推進機構
- (公財)仙台観光国際協会
- (株)河北新報社
- 仙台ホテル総支配人協議会
- 秋保温泉旅館組合

□ 開催の記録

	日時・会場	説明・協議事項
第1回	7月3日(水)11:00～ 仙台市役所本庁舎8F 第一委員会室	(1)観光レジリエンスサミットの開催概要 及び市の取組予定について (2)地元連絡会各団体への協力依頼事項 について (3)その他
第2回	10月23日(水)13:30～ 仙台市役所本庁舎8F 第一委員会室	(1)期間中の日程について (2)実施事業概要について (3)その他

■ 主催者との連絡調整

観光レジリエンスサミットに向けて、主催者である観光庁や、東北運輸局等の関係機関と連携して準備を進めました。仙台での開催にあたり、仙台・東北ならではの魅力を発信し、本市の観光レジリエンス強化に向けた取り組みを推進するため、観光庁と協議しながら実施事業を固めました。

5月28日に本サミットの仙台開催が決定した後、11月までの約6か月の期間、観光庁による現地視察への同行のほか、オンライン定例会議の実施や、地元関係機関との連絡調整など、関係者間で密に連携を図りながら準備を推進しました。

■ 警備体制

会合期間中は、観光庁、宮城県警察、仙台市の協議により警備計画を作成し、実施しました。

巡回警備、IDカードの発行、参加者の確実な受付による出入管理等により、大きなトラブルもなく全日程が終了しました。



仙台国際センター警備の様子

■ 危機管理体制

会合期間中は、危機への対応や発生防止のため、下記のとおり危機管理レベルおよび対応体制を設定しました。

また、会合開催前に、危機対策本部の運用を主眼とした初動対応訓練（図上訓練）を行い、テロ災害発生時の対応等を確認しました。

【危機管理レベルおよび対応体制】

期 間：11月9日(土)～11日(月)

体 制：危機管理レベル1(情報連絡体制の強化)

【初動対応訓練】

実施日：10月31日(木)

場 所：青葉区役所4階災害情報センター

参加者：危機対策本部事務局および各局区主管課等

内 容：爆破テロ災害発生時における危機対策本部の初動対応訓練（図上訓練）



初動対応訓練の様子

2. 会合開催支援②－警備・救急・消防体制・衛生対策等－

■ 消防体制

会合会場および関連施設等における火災等の未然防止と災害発生時の消防活動に万全を期すため、仙台市消防局による消防特別警戒を実施しました。特に、会場である仙台国際センター、佐勘には現地警戒本部を設置し、警戒体制を敷くとともに消防・救急車両を常駐配備しました。

また、会合開催前に、会場やエクスカッション関連施設等を対象にした特別査察を行いました。

【消防体制の概要】

期間：11月9日(土)～11日(月)

体制：第二警戒体制(現地警戒本部設置・人員および車両等手配)
とし、延べ91名で対応

災害等発生状況：警戒期間中、会合の開催に係る災害
および救急事案の発生なし

■ 救急医療体制

会合参加者に傷病者が発生した場合の受入や人員体制の確保等について、東北大学病院をはじめとする市内の災害拠点病院等に協力を依頼し、医療体制を確保しました。

また、大規模災害等発生時におけるDMAT(災害派遣医療チーム)の派遣について、宮城県等に協力を依頼しました。

【対応状況】

医療機関の対応：0件
DMAT出動要請：なし

■ 衛生対策

会合会場や宿泊施設、関連事業の会場における食品衛生および生活衛生の確保について、仙台市保健所が衛生指導を実施しました。

【実施内容】

- 監視指導、食品検査、ふき取り検査等による食中毒防止対策
- ノロウイルスやレジオネラ症防止対策のための宿泊施設等への監視指導
- 飲料水の安全確保対策
- 室内空気環境測定等による建築物衛生確保対策

■ 受入環境整備

受入環境整備のため、庁内関係課長会議を実施し協力体制の構築を図ったうえで、会場周辺および通行ルートにおいて、快適で安全・安心な環境と美しい景観を整備するための各種取り組みを実施しました。

【実施内容】

会合前

- 西公園～仙台国際センターの歩道・法面の除草
- 会場周辺や市内中心部の落書き消去依頼
- 仙台市中心部の清掃活動(仙台駅前、一番町、定禅寺通、青葉通等)
- 水道施設全体の巡回

会合期間中

- 通行ルート上の路上工事の休工依頼
- 会場周辺で施工中の路上工事を対象とした警備強化
- 水道施設全体の監視強化

2. 会合開催支援③－語学ボランティア－

会合期間中、35名の語学ボランティアが、様々な場面で会合参加者等へのサポートやおもてなしを行いました。



□ 当日の体制

活動人数：延べ38名(従事者数：35名)

(内訳) 11月 9日(土) 23名(仙臺緑彩館 16名、佐勘 7名)

11月10日(日) 12名(エクスカーション 12名)

11月11日(月) 3名(佐勘 3名)

活動場所	活動内容
● 青葉山公園 仙臺緑彩館 (AOBAYAMA MORNING会場)	・ 日本文化体験受付補助 ・ 昼食ビュッフェでの案内補助 ・ 風呂敷ワークショップ、着付け体験、呈茶体験の説明補助 ・ 講演会・展示の説明補助
● 佐勘 (歓迎レセプション会場)	・ 会合参加者のお出迎え、お見送り ・ PRブースの案内補助 ・ 歓迎レセプションの運営補助、案内補助、アナウンス補助
● エクスカーション訪問先 ・ 震災遺構 仙台市立荒浜小学校 ・ JRフルーツパーク仙台あらはま ・ 鐘崎総本店 笹かま館 ・ 仙台うみの杜水族館 ・ 天守閣自然公園	・ 見学の誘導補助、説明補助 ・ 体験の説明補助

□ 活動者アンケート

約9割の方が「満足・どちらかというと満足」と回答しました。不満の声としては、活動時間の短さや活動機会の少なさなどが挙げられた一方、会合参加者との交流にやりがいを感じたという声もみられ、配置場所によって満足度に差が出る結果となりました。

2. 会合開催支援④－語学ボランティア－

語学ボランティアに対しては、事前におもてなしの基本やマナー、仙台の魅力発信に役立つ英語表現等の研修を実施し、各自が準備を重ねながら当日を迎えました。

□ 募集

募集期間：7月19日(金)～8月19日(月)

応募人数：50人程度

募集方法：(公財)仙台観光国際協会に登録されているボランティア、
仙台コンベンション学生サポーターから募集のうえ決定

□ ボランティア育成研修会

日時：9月23日(月・振替休日) 10:00～13:00

9月28日(土) 13:00～16:00

会場：(公財)仙台観光国際協会 会議室

対象：語学ボランティア未経験者

内容：語学ボランティアとしての心得、会合参加者のおもてなし、
仙台・東北の魅力発信に役立つ英語表現など

□ 結団式および活動内容説明会

日時：10月26日(土) 9:30～12:00

会場：仙台市役所二日町第五仮庁舎(オンワード樺山仙台ビル)10階ホール

【結団式】

仙台市から「これまでの研修や経験を活かし、仙台の顔として会合参加者の皆さまをあたたくお迎えし、仙台の魅力をお伝えいただきたい」と挨拶を行い、語学ボランティアへボランティアジャンパーを贈呈しました。

代表2名から、「ボランティア仲間と一致団結して活動していきたい」、「仙台にまた来たいと思ってもらえるよう、仙台・東北の魅力を発信したい」と決意表明がありました。

【活動内容説明会】

活動本番におけるボランティアの配置場所や活動内容について説明を行った後、海外からのゲストに対する接客マナーや、会合期間中の具体的な場面を想定した英語でのロールプレイングといった研修を行いました。



3. 歓迎事業の企画・運営①－AOBAYAMA MORNING/サミット開催記念講演会－



来仙した会合参加者を歓迎し、また市民の皆さまがサミットへの理解を深めるためのイベントを実施しました。

日時：11月9日(土) 10:00～14:00

会場：青葉山公園 仙臺緑彩館

主催：仙台市

【歓迎イベント】AOBAYAMA MORNING

内 容：日本文化体験(呈茶、着物の着付け、風呂敷包み)、
仙台・宮城の食材を活用したビュッフェ

参加者数：延べ13名

【講演会】※ 市民参加可

サミット開催記念講演会 震災の教訓を未来につなぐ

－観光で学ぶ震災の記憶－

時間	テーマ	団体名・登壇者名
10:00～10:10	ご挨拶	・仙台市観光レジリエンスサミット推進室 ・東北大学 災害科学国際研究所 副研究所長 小野 裕一 氏
10:10～10:20	観光レジリエンスサミットについて	観光庁 国際観光部 参事官(MICE)付 課長補佐(総括) 石徹白 康平 氏
10:25～10:50	防災ミュージアムの歩き方①	宮城県仙台二華高等学校(生徒) 地主 樹 氏、高橋 俊人 氏、伊藤 哲 氏
10:55～11:20	3.11伝承ロードの取り組み①	(一財)3.11伝承ロード推進機構 業務執行理事 原田 吉信 氏
12:35～13:00	防災ミュージアムの歩き方②	宮城県仙台二華高等学校(生徒)
13:05～13:30	3.11伝承ロードの取り組み②	(一財)3.11伝承ロード推進機構

展示ブース：

- ・ 伝承ロードの取り組み((一財)3.11伝承ロード推進機構)
- ・ 東北と海外の防災ミュージアム(宮城県仙台二華高等学校)
- ・ 防災環境都市づくり(仙台市)
- ・ 東日本大震災時の民間事業者の取り組み(仙台市)
- ・ 海浜エリアの復興と現在の賑わい(仙台市)
- ・ 観光と危機管理にかかる本市の取り組み(仙台市)

参加者数：約70人

3. 歓迎事業の企画・運営②－PR展示ブース－

会合参加者に向けて仙台・東北をPRする展示を行いました。

日時：11月9日(土)午後～11日(月)午前

会場：佐勘1Fロビー

主催：仙台市

東北6県の観光PR

各県の観光案内・お祭り衣装



(写真左から)青森ねぶた祭(青森ねぶた祭実行委員会)、秋田竿燈まつり(秋田市竿燈まつり実行委員会)、盛岡さんさ踊り(盛岡さんさ踊り実行委員会)



(写真左から)仙台すずめ踊り(仙台・青葉まつり協賛会)、山形花笠まつり(山形県花笠協議会)、福島わらじまつり(福島わらじまつり実行委員会)

各県の伝統工芸品



(写真左から)

伝統工芸品	出展団体
津軽塗	青森県漆器協同組合連合会
大館曲げわっぱ	大館曲げわっぱ協同組合
南部鉄器	南部鉄器協同組合
天童将棋駒	山形県将棋駒協同組合
赤べこ	笑美
ガラス万華鏡 *	ガラス工房元
玉虫塗マルチボールペン *	(有)東北工芸製作所
松川だるま	本郷だるま屋
仙台平	(資)仙台平
堤人形	つつみのおひなっこや

* 会合参加者への記念品(P25参照)

□ 宮城伝統こけし～秋保の子どもたちによる個性豊かな絵付け～



宮城県立秋保かがやき支援学校に通う児童・生徒の皆さまのご協力を得て、こけしの絵付けを実施しました。作並こけし「平賀こけし店」の工人平賀輝幸氏による直接指導のもと、宮城伝統こけしの種類や特徴、作り方について学びながら、それぞれ思い思いの絵付けを行い、おもてなしの気持ちが込められた個性豊かな作品が完成しました。

これらのこけしは佐勘に展示して会合参加者にご覧いただき、終了後は、写真入りの感謝状を添えて、子どもたちに返却しました。

【こけしの絵付け実施概要】

日 時：9月24日(火) 10:00～12:00

会 場：宮城県立秋保かがやき支援学校 小体育館

参加者数：小学部(4～6年生) 17名、中学部(1～3年生)18名



□ 東日本大震災からの復興に関する取り組み

- 防災環境都市
- 東日本大震災からの復興と新たな賑わい



□ 本市の施策

- ZERO-CARBON CITY
- プラスチックの水平リサイクル
- BOSAI-TECH
- 杜の都仙台



3. 歓迎事業の企画・運営⑤－会合参加者への記念品、PR用配布物－

■ 会合参加者への記念品

会合参加者に向けて、歓迎の意を表すとともに、仙台の魅力発信やイメージの向上を目的に、特別仕様の記念品を贈呈しました。

【閣僚級】

ガラス万華鏡

ガラスと万華鏡を融合させた唯一無二の美しい世界観を作り出す作品。サミットロゴの色模様が見えるレンズが特徴。

- 製作：ガラス工房元 佐藤 元洋 氏
- サイズ：直径5cm×高さ14.5cm



【その他会合参加者】

玉虫塗マルチボールペン

玉虫の羽根に似た豊かな色調と光沢を有する「玉虫塗」にサミットロゴを施したオリジナルデザインのボールペン。

- 製作：(有)東北工芸製作所
- サイズ：縦1cm×横1cm×長さ13.5cm



■ PR用配布物

会合参加者に向けた仙台・宮城の魅力発信のため、コンgresバッグに各種パンフレットやPRグッズを同封し、配布しました。



配布物一式



秋保ガイドマップ表面



秋保ガイドマップ中面

□ 配布物

【パンフレット等】※全て英語表記

- 市内無料体験のご案内
- 仙台ツーリストマップ
- 秋保ガイドマップ
- 仙台ガイドブック
- 仙台3.11ビフォーアフターパンフレット
- 防災環境都市・仙台
- せんだいメディアテークガイドブック

【オリジナルグッズ】

- 玉虫塗マルチボールペン
- 樺細工 箸置き(観光庁手配)
- サミットロゴ入り付箋
- 仙台弁こけしドリップコーヒー

4. 情報発信・PR①ーシティドレッシング(市内装飾)、カウントダウンボード設置ー

■ シティドレッシング(市内装飾)

仙台市内中心部や玄関口であるJR仙台駅および仙台空港において、観光レジリエンスサミットに向けた装飾を実施し、仙台を訪れる関係者に歓迎の意を表すとともに、サミットに向けた機運醸成を行いました。

■ カウントダウンボード設置

観光レジリエンスサミット開催までの日数を示すカウントダウンボードを、50日前である9月20日(金)から各所に設置しました。このほか、第2回観光レジリエンスサミット地元連絡会の際にも設置し、会議の周知を行うとともに、開催機運の醸成を図りました。

期間	場所	内容
10月12日(土) ～11月11日(月)	青葉通(東二番丁通～晩翠通)	歓迎フラッグ掲出
	ハピナ名掛丁商店街	歓迎横断幕掲出
	市役所本庁舎仮囲い東面	歓迎マグネットシート掲出
	JR仙台駅東口ペDESTロリアンデッキ(JR仙台駅2階東西自由通路先)	歓迎フロアシート設置
11月5日(火)～11日(月)	仙台空港 国内線到着ロビー	歓迎看板掲出
9月20日(金) ～11月11日(月)	仙台市役所1階東玄関付近展示スペース(県庁・市役所前バス停前)、 仙台国際センター、 秋保・里センター	カウントダウンボード設置



歓迎フラッグ



歓迎横断幕



歓迎マグネットシート



歓迎フロアシート



歓迎看板



カウンドダウンボード

※ 仙台空港の歓迎看板は、(公財)仙台観光国際協会の協力により実施しました。

4. 情報発信・PR②－市政だより掲載、仙台市ホームページ

■ 市政だより掲載

仙台市政だより各号に観光レジリエンスサミットの概要や関連イベント等の案内などを掲載し、市民向けの周知・広報を行いました。

【掲載内容】

- 7月号: 開催決定、サミット概要
- 11月号: 準備状況、関連イベント
- 12月号: 開催報告



市政だより11月号



市政だより12月号

■ 仙台市ホームページ

仙台市ホームページ内に観光レジリエンスサミットの特設ページを開設し、開催のPRを行うとともに、会合参加者へのおもてなしに向けた取り組みや、市民向けの関連イベント情報などについて発信しました。



【主な掲載内容】

- 観光レジリエンスサミットについて
- 観光レジリエンスサミット地元連絡会
- 観光危機管理の強化
- 会合参加者へのおもてなしに向けた取り組み
- カウントダウンボード、横断幕等による広報
- 市民向け関連イベント(講演会)

【URL】

https://www.city.sendai.jp/mice/tourism_resilience_summit.html

4. 情報発信・PR③ー河北ウィークリーせんだい、子ども記者、仙台・未来創造フォーラムでのPRー

■ 河北ウィークリーせんだい

河北ウィークリーせんだい10月31日号に観光レジリエンスサミットの概要、開催記念インタビューや関連イベント情報を掲載し、市民の皆さまに周知・広報を行いました。



河北ウィークリーせんだい
10月31日号掲載

■ 子ども記者によるエコファミリーしんぶん取材

子どもたちの国際教育の推進を図るとともに、サミットの概要を広くお知らせするため、小学生記者が各国大臣に取材を行い、市内小学校で配布される「エコファミリーしんぶん」12月号に記事を掲載しました。また、同号の表紙では、宮城県立秋保かがやき支援学校によるこけし絵付けの取り組みについても取り上げられました。



大臣を取材する子ども記者



エコファミリーしんぶん
12月号掲載



■ 仙台・未来創造フォーラムでのPR

11月7日(木)に八芳園(東京都港区)で開催された仙台・未来創造フォーラム(首都圏プロモーション)において、観光レジリエンスサミットのPRを行いました。

当日は、郡市長による本市プレゼンテーションの中で観光レジリエンスサミット開催を紹介したほか、パネル展示を行いました。また、観光庁長官萩川直也氏が駆け付け、祝辞をいただきました。



萩川直也観光庁長官 祝辞



仙台・未来創造フォーラム 展示の様子

5. 観光危機管理マニュアル①

□ 仙台市観光危機管理マニュアルの作成

サミットの開催を契機とし、本市においてインバウンドを含めたさらなる観光客の誘客を図っていくことを見据え、災害時の観光客への情報発信や外国人への対応等について改めて整理した災害対応マニュアルを作成しました。

1～3月：観光庁ワークショップ参加

5～10月：作成作業

□ 観光危機管理ワークショップの開催

市内観光関連事業者等の観光危機に対する意識の向上・体制の強化を目的としたワークショップを全3回で開催しました。講師に観光レジリエンス研究所代表の高松正人氏を招き、観光危機管理とBCPの重要性を学んだほか、民間事業者における災害対策事例の紹介を行いました。

ワークショップでは、作成中の仙台市観光危機管理マニュアル案を示して関係事業者と意見交換を行うとともに、本市の観光危機管理に対する取り組みについて理解を深める機会となりました。



マニュアル付録



ワークショップの様子

	開催日・会場	内容	参加団体
第1回	7月17日(水) TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口 カンファレンスルーム7H	- 観光危機管理の重要性～行政、事業者等との役割分担～ (観光レジリエンス研究所代表 高松 正人 氏) - 災害に備える事業継続計画(BCP)のすすめ (観光レジリエンス研究所代表 高松 正人 氏) - 観光危機管理に関するディスカッション	11
第2回	8月22日(木) TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口 カンファレンスルーム7D	- 観光産業における災害時の情報集約プラットフォームについて (一社)日本旅行業協会) - 訪日外国人向け災害情報提供アプリ「Safety tips」の取り組みについて (アールシーソリューション(株)) - 民間事業者の観光危機対策事例のご紹介 (株)タケヤ交通) - 仙台市観光危機管理マニュアルについての意見交換	13
第3回 × 仙台防災枠組講座	10月3日(木) TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口 カンファレンスルーム7C	- 能登半島地震の経験と教訓 (和倉温泉 多田屋) - 仙台防災枠組について (仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室) - 民間事業者の観光危機対策事例のご紹介 (株)丸和運輸機関) - 仙台市観光危機管理マニュアルについての意見交換 - 全3回のワークショップを通しての意見交換	14

5. 観光危機管理マニュアル②

□ 仙台防災枠組講座との連携によるセミナーの開催

サミットの開催終了後、市民向けに観光レジリエンスサミットの成果について仙台防災枠組と関連付けて学んでいただく場として、「仙台防災枠組講座 総合編」を開催しました。

【開催概要】

名 称: とともに考える防災の未来 私たちの仙台防災枠組講座シリーズ
 仙台防災枠組講座 総合編
 —地域防災の事例と観光レジリエンスサミットの成果から学ぼう—
 日 時: 12月21日(土) 10:00~12:00
 会 場: TKPガーデンシティ仙台 ホール21A
 主 催: 東北大学災害科学国際研究所、仙台市
 参加者数: 83名

【プログラム】

- 講 義 「観光レジリエンスについて」
 観光レジリエンス研究所代表 高松 正人 氏
 「仙台防災枠組について」
 東北大学災害科学国際研究所教授 今村 文彦 氏
- 事例発表 「多文化防災に関する取り組み」
 せんだい外国人防災リーダー
 ゴッドフレイ・モンテロ・エドゥアルド・リチャード 氏
 (公財)仙台観光国際協会 岡崎 諒 氏
 「地域防災の取り組み」
 災強のすけっと 浦尾 樹正 氏、三瓶 杏純 氏
 ◎コメント 東北大学災害科学国際研究所教授 泉 貴子 氏
- 総 括 東北大学災害科学国際研究所所長 栗山 進一 氏





第3章 資料集

**Tourism Resilience Summit Ministerial Meeting
Joint Statement
10 November 2024, Sendai**

1. On 10 November 2024, Japan hosted the “Tourism Resilience Summit” in Sendai, in collaboration with UN Tourism. Sendai provided the site for the Summit as it has been working to recover from an unprecedented disaster. Sendai is also the place where the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 was adopted at the Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction. The Summit aimed to contribute to more resilient and sustainable development of the global tourism sector.
2. The term ‘resilience’ has traditionally been associated with discussions on disasters caused by natural hazards and economic crises. However, the COVID-19 pandemic has highlighted the vulnerability of the tourism sector to external pressures.
3. As tourism is expected to grow substantially in both scale and influence, the likelihood of tourism-related risks affecting the economy and society will increase. In our ongoing efforts to achieve the Sustainable Development Goals (SDGs), the concept of “tourism resilience” holds critical importance, recognizing the interconnection between sustainability and resilience.

4. At the Ministerial Meeting, it was affirmed that advance preparation to prevent and minimize the impacts of crises and disasters caused by natural hazards is of utmost importance. At the same time, it was acknowledged that absorbing the impacts of crises and disasters caused by natural hazards and recovering through adaptation and transformation is necessary to better prepare for future threats. The meeting provided an opportunity for each country and international organization to share their experiences and knowledge, and to summarize the direction of initiatives to improve ‘tourism resilience’.

Preventing and Minimizing the Impacts of Crises and Disasters Caused by Natural Hazards

5. It is important to prepare in advance, ensure the effective function of response systems and collect and communicate accurate information to prevent and minimize the impacts of crises and disasters caused by natural hazards. We hereby affirm the following initiatives:
 - i. Anticipating and evaluating risks based on the geographical conditions and characteristics of the tourism industry in each region, subsequently applying this knowledge to the tourism sector.

1. 観光レジリエンスサミット閣僚級会合 共同声明(仙台声明)②

- ii. Identifying necessary stakeholders and clarifying roles in advance to establish coordination systems that function effectively in the face of threats.
- iii. Informing tourists, tourism businesses, and residents about potential risks, establishing reporting lines in advance, collecting and disseminating accurate information promptly in the event of a crisis and disasters caused by natural hazards, and preventing and controlling damage caused by the spread of misinformation after the events.
- iv. Conducting training, simulations, and capacity building of both individuals and organizations for crises and disasters caused by natural hazards.

Absorbing the Impacts of Crises and Disasters Caused by Natural Hazards, and Recovering through Adaptation and Transformation

- 6. It is essential to minimize the impacts and make progress toward recovery after a crisis or a disaster caused by a natural hazard. Adaptation and Transformation should be part of the recovery process, with an emphasis on preparing for future threats. We hereby endorse the following initiatives:

- i. Applying insights gained from past experiences to develop a tourism strategy, aimed at improving responses to future crises and disasters caused by natural hazards.
 - ii. Strengthening cooperation between the public and private sectors to continue and resume tourism businesses, and to secure human resources in tourism destinations.
 - iii. Developing and promoting tourism products throughout the entire community in line with the future vision of each region through the process of recovery and creation of tourism demand.
- 7. These initiatives cannot be realized by focusing solely on the tourism sector. We pursue 'tourism resilience' through collaboration and cooperation with a wide range of stakeholders at the global, national, local, and private sector.

1. 観光レジリエンスサミット閣僚級会合 共同声明(仙台声明)③

<仮訳>

観光レジリエンスサミット閣僚級会合 共同声明 (仙台声明) 2024年11月10日 仙台

1. 2024年11月10日、世界の観光セクターのより強靱で持続可能な発展に貢献するべく、世界観光機関（UN Tourism）と連携し、仙台で「観光レジリエンスサミット」を開催した。仙台は、未曾有の震災からの復興に取り組んでおり、第3回国連防災世界会議が開催され、「仙台防災枠組 2015-2030」が採択された地である。
2. 「レジリエンス」という文脈は、これまでは自然災害や経済危機等について語られてきており、コロナウイルス感染症のパンデミックを経て、観光という分野が外部からの影響に極めて脆弱であることが改めて浮き彫りになった。
3. 将来、観光交流がさらに活発化し、その影響がさらに増大することが予想されるところ、経済・社会が観光の抱えるリスクの影響を受ける可能性が増幅する。持続可能性とレジリエンスは相互に関連しており、我々が持続可能な開発目標に向けて取り組んでいるなか、「観光レジリエンス」という概念は非常に重要な意味を持つ。

4. 大臣会合では、危機や自然災害の影響の防止・最小化のために事前の備えを行うことが何より重要であることを確認し、また、発生した危機や自然災害についてはその影響の吸収、適応と変革を通じた回復によって将来の脅威によりよく備える必要性を認識した。この機会に、日本及び各国が有する経験・知見を共有するとともに、観光レジリエンス向上に向けた取組の方向性を取りまとめた。

危機や自然災害の影響を防止・最小化する

5. 危機や自然災害が発生した時の影響を防止・最小化するためには、事前の備えを行い、対応体制を確実に機能させるとともに、正確な情報収集・発信が重要である。我々は、以下のような取組を推進することを確認した。
 - i. 各地域の地理的状況や観光産業の特徴を踏まえ、それぞれの地域が直面し得るリスクを把握・評価し、観光分野に活用すること。

1. 観光レジリエンスサミット閣僚級会合 共同声明(仙台声明)④

- ii. 脅威に直面した際に有効に機能する連携体制を構築するために、事前に必要な関係者を特定し、役割分担を明確化すること。
 - iii. 観光客、観光事業者、地域住民等に向けて事前にリスクを周知するとともに、レポーティングラインを確立し、危機や自然災害の発生時には正確かつ迅速に情報を収集・発信するとともに、発生後には事実と異なる情報が拡散することによる観光地への被害を防止・管理すること。
 - iv. 事前に訓練やシミュレーション、個人・組織の危機・自然災害への対応能力の開発を行うこと。
 - i. 将来の危機や自然災害によりよく対応するために、過去の教訓を新たな観光戦略へ活用すること。
 - ii. 観光関連事業の継続・再開と観光地の人的資源確保のために、官民の連携を強化すること。
 - iii. 観光需要の回復・創出の過程において、地域一体となって各地域の将来像に沿った観光商品の開発・振興すること。
7. これらの議論は、観光セクターのみに焦点を当てては、実現できない。世界・国・地方・民間の各主体が多様な関係者と連携・協力しながら、観光レジリエンスを追求する。

以上

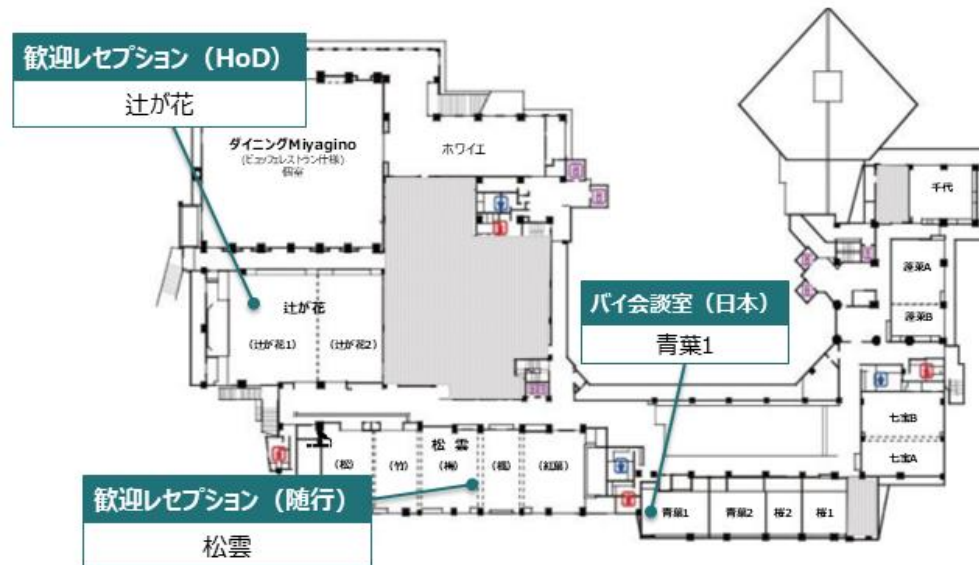
危機や自然災害の影響を吸収し、適応と変革を通じて回復する

6. 危機や自然災害が発生した後は、その影響を吸収しつつ、回復に向けて歩みを進めていく必要がある。回復過程には適応と変革が必要であり、再び将来の脅威に備えることが重要である。我々は、以下のような取組を推進することを確認した。

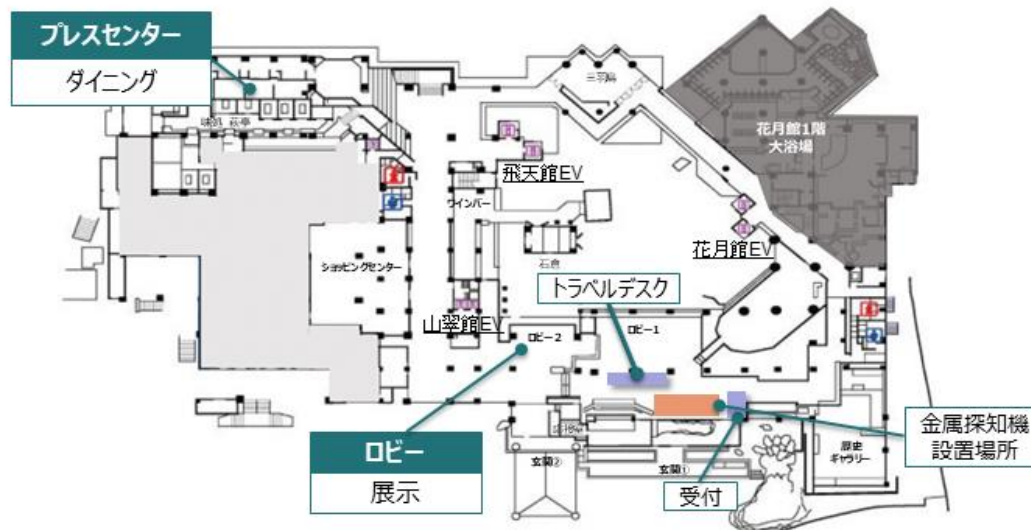
2. 会場図①

□ 11月9日(土) 佐勘

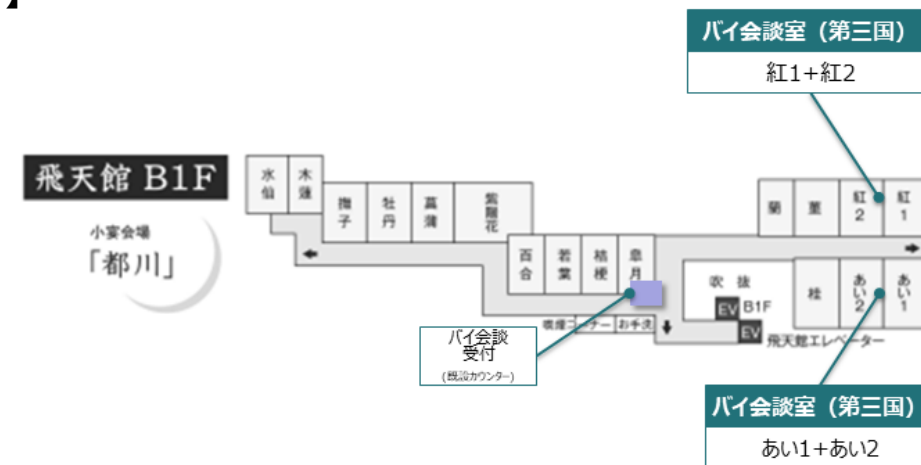
【2F】



【1F】

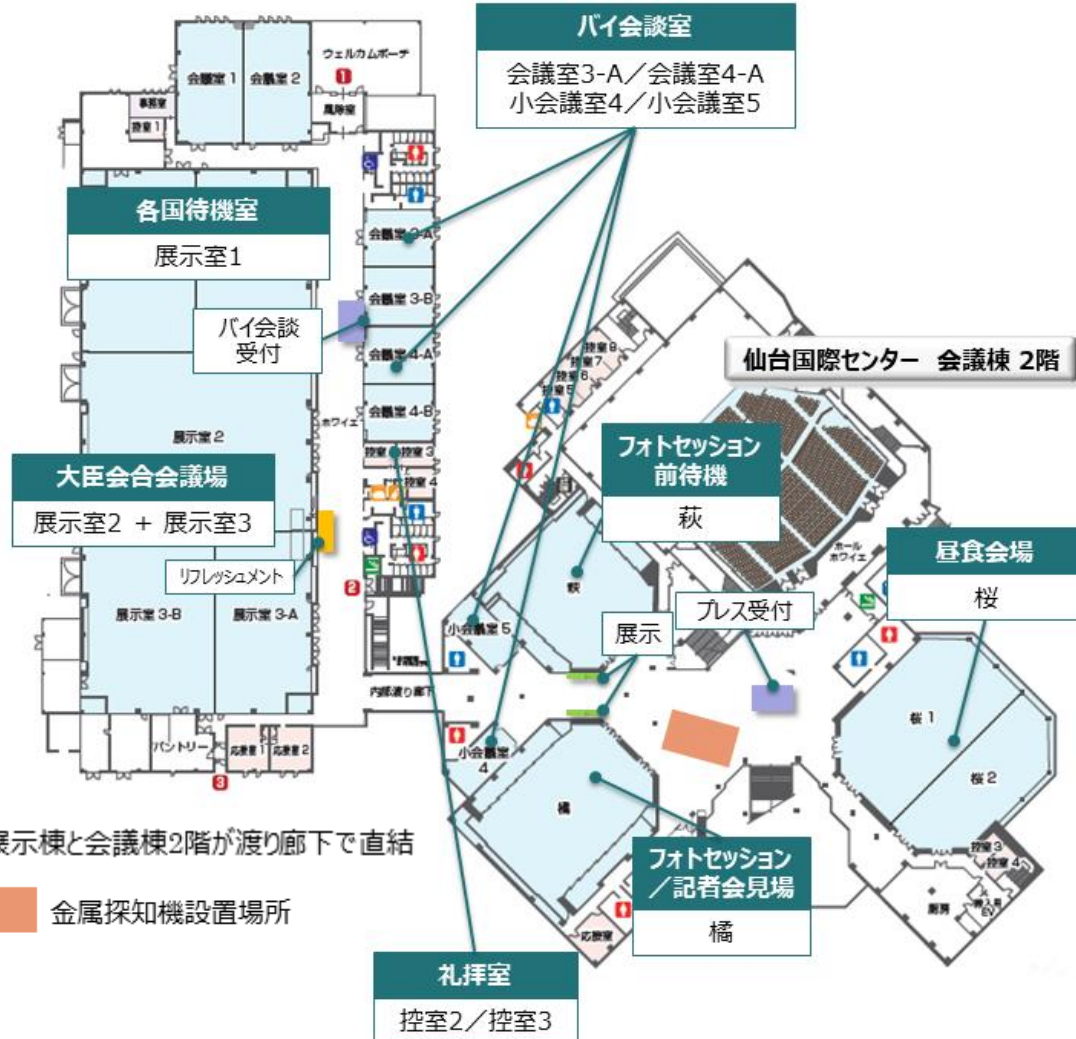


【B1F】

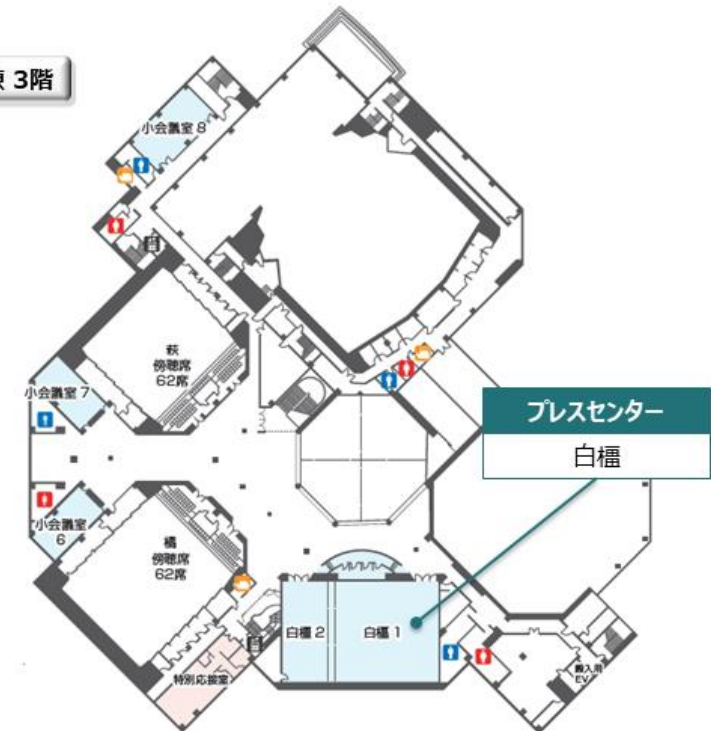


□ 11月10日(日) 仙台国際センター

仙台国際センター 展示棟



仙台国際センター 会議棟 3階



年 月 日	項 目
2023年(R5)10月26日	ツーリズムEXPOジャパン観光大臣会合において、来年秋に仙台で国際会議の開催を検討している旨、国土交通省加藤政務官より発言あり
2024年(R6) 5月28日	観光庁ホームページにて、「観光レジリエンスサミット」の仙台開催について発表(日程、会議名称)
6月 1日	仙台市文化観光局内に観光レジリエンスサミット推進室設置(正職員4名体制)
7月 1日	観光レジリエンスサミット推進室1名増員(正職員5名体制)
7月 3日	第1回観光レジリエンスサミット地元連絡会(東北運輸局より閣僚級会合と歓迎レセプションの会場公表)
7月 4日	受入環境整備等庁内関係課長会議
7月17日	観光危機管理ワークショップ(第1回)
8月22日	観光危機管理ワークショップ(第2回)
9月20日	ロゴマーク決定、カウントダウンボード掲出(50日前)
9月23日	語学ボランティア育成研修会①
9月24日	秋保地区の子どもたちによるこけしの絵付けを実施
9月28日	語学ボランティア育成研修会②
10月 3日	観光危機管理ワークショップ(第3回)×仙台防災枠組講座
10月12日	シティドレッシング開始(～11/11)
10月23日	第2回観光レジリエンスサミット地元連絡会
10月26日	語学ボランティア結団式および活動内容説明会
10月29日	仙台駅周辺帰宅困難者対応訓練
11月 7日	仙台・未来創造フォーラム(首都圏シティプロモーション)パネル展示
11月9日～11日	観光レジリエンスサミット 開催
12月 1日	観光レジリエンスサミット推進室2名減員(正職員3名体制)
12月21日	「仙台防災枠組講座総合編 ー地域防災の事例と観光レジリエンスサミットの成果から学ぼうー」
2025(R7)年1月31日	観光レジリエンスサミット推進室 廃止(予定)

【観光レジリエンスサミット開催に係る本市の予算・決算】

科目	予算額	決算額	増減	備考
1. 関係機関との連絡調整、開催機運の醸成、受け入れ環境整備に係る経費	8,050,000	5,645,389	△2,404,611	ボランティア研修、シティドレッシング等
2. 歓迎・情報発信に係る経費	45,950,000	45,823,627	△126,373	歓迎レセプション、エクスカーション、AOBAYAMA MORNING等
3. 観光危機管理に係る経費	10,000,000	5,533,000	△4,467,000	観光危機管理マニュアルの作成等 (観光庁「令和5年度ポストコロナを見据えた受入環境整備促進事業補助金」)
合計	64,000,000	57,002,016	△6,997,984	

4. 掲載記事一覧①

月日	発信元	新聞	テレビ	WEB	タイトル
2023年 10月27日	日本経済新聞	○			観光強靱化へ国際会議 政府と国連機関 仙台で来年秋
2024年 5月28日	東北放送			○	自然災害やパンデミックからの観光産業の復興を共有へ 「観光レジリエンスサミット」仙台市で今年11月に開催
5月28日	ミヤギテレビ		○		【<観光業の回復力>について話し合う】『国際会議』が仙台で今年開催へ このテーマの国際会議は国内で初めて
5月29日	河北新報	○			観光業の危機対応 議論 仙台で11月、国際会議
5月29日	航空新聞社			○	「観光レジリエンスサミット」開催決定 観光庁、UNツーリズムと連携し11月に仙台で
5月30日	NHK		○		観光の危機対応 仙台で初の国際会議開催へ
5月30日	読売新聞	○			観光業「災害回復力」議論 11月、仙台で国際会議
5月30日	朝日新聞			○	第1回観光レジリエンスサミットが仙台で開催決定 今年11月
6月 6日	観光経済新聞			○	観光庁、11月に仙台市で国際会議 観光レジリエンスをテーマに
6月10日	トラベル ジャーナル オンライン			○	初の観光レジリエンス国際会議、11月に仙台で開催 観光庁が企画 危機対応を議論
7月 3日	ミヤギテレビ		○		<11月開催「観光レジリエンスサミット」>観光地の災害対応や持続可能性について話し合う国際会議 これに向け観光・警備などについて初会合(仙台市)
7月 3日	東日本放送		○		11月に仙台市で開催 観光復興の国際会議 国際センターとホテル佐勘が会場に
7月 3日	NHK		○		11月 仙台で観光の国際会議 関係機関が今後の準備など確認
7月 3日	日本経済新聞			○	仙台市、観光業の災害対応の国際会議に向け連絡会開催
7月 4日	日本経済新聞	○			仙台市、観光国際会議に向け連絡会
7月 4日	河北新報	○			観光国際会議 対応へ連絡会 市や東北運輸局
7月 5日	観光経済新聞			○	観光庁、災害復興の知見発信 11月仙台開催の「レジリエンス国際会議」に向け
7月10日	日本経済新聞			○	東北運輸局の川崎博局長「東北の魅力、世界に発信」
7月18日	読売新聞	○			観光客の災害避難 訓練必要性を指摘 仙台で講演

4. 掲載記事一覧②

月日	発信元	新聞	テレビ	WEB	タイトル
7月24日	河北新報	○			観光事業者ら 危機管理学ぶ 仙台で講話
8月29日	河北新報	○			自然災害、武力攻撃、感染症 観光危機管理へ指針原案 仙台市 外国人客対応を強化
9月23日	NHK		○		観光レジリエンスサミット仙台開催へ 語学ボランティアが研修
9月30日	河北新報	○			こけし自分色に 児童らが絵付け 秋保かがやき支援学校
10月 3日	NHK		○		能登半島地震で被災の若おかみ“観光地全体で連携し備えを”
10月 4日	ミヤギテレビ		○		能登半島地震で被災 老舗旅館の若女将が仙台市で語る「旅館同士の有事の時の連携を」観光危機管理マニュアル強化へ
10月23日	仙台放送		○		観光レジリエンスサミットとは？ 災害やパンデミックに強い社会に 仙台で11月初開催
10月23日	NHK		○		来月「観光レジリエンスサミット」仙台市や県などが情報共有
10月25日	観光経済新聞			○	観光レジリエンスサミットで観光庁が11月9日にシンポジウム開催、仙台で
10月25日	旅行新聞			○	11月9(土)～11日(月)、宮城県仙台市で「観光レジリエンスサミット」観光分野の防災・復興の知見を各国と共有(観光庁)
10月30日	河北新報	○			来月・国際会議の記念品 参加国閣僚らにガラスの万華鏡
11月 6日	NHK		○		観光レジリエンスサミット 郡市長“被災地開催は意義深い”
11月 6日	ミヤギテレビ		○		<9日開幕・国際会議>『観光レジリエンスサミット』仙台市長が意欲「震災復興や防災を世界に発信したい」
11月 9日	河北新報	○			防災環境都市・仙台PR 関連イベントスタート 国際会議「観光レジリエンスサミット」
11月 9日	東北放送			○	「おもてなしスピリットが込められている」仙台で「観光レジリエンスサミット」開幕 参加者らが日本文化に触れる体験イベントも
11月10日	河北新報	○			観光危機対策 仙台発 あすまで議論 被災地視察も レジリエンスサミット開幕 10カ国参加
11月10日	読売新聞	○			観光業 国際交流を推進 閣僚級会合 仙台で開幕 災害など危機管理議論
11月10日	共同通信			○	「危機に強い観光」へ声明 アジア閣僚級会合、初採択
11月10日	東北放送		○		「災害時などでの観光産業の早期復興を協議」観光レジリエンスサミット閣僚級会合 仙台で開催 郡市長もスピーチ

4. 掲載記事一覧③

月日	発信元	新聞	テレビ	WEB	タイトル
11月10日	東北放送			○	災害やパンデミックから観光産業の早期復興に向けて アジア・太平洋地域「観光レジリエンス」共同声明を発表 仙台
11月10日	東日本放送		○		観光レジリエンスサミット開催「仙台声明」採択 郡市長も出席
11月10日	NHK		○		観光レジリエンスサミット 閣僚級会合で共同声明まとめる
11月10日	トラベルボイス			○	日本と国連の連携で「観光レジリエンス(回復力)サミット」初開催、「仙台声明」を採択、自然災害や危機発生時の影響防止・最小化に向けて
11月11日	河北新報	○			国際会議 レジリエンスサミット 「仙台声明」を採択 観光産業の危機対応提言
11月11日	東北放送		○		観光業の復興を話し合う国際会議で訪れた各国閣僚が「被災地が再び活気に満ちていると感じた」感じた場所とは 仙台
11月11日	航空新聞社			○	危機に強い観光の実現へ、国際的な連携強化 観光レジリエンスサミット開催、「仙台声明」を採択
11月12日	NHK		○		観光産業の危機対応など市民が学ぶセミナー 仙台市が開催へ
11月12日	河北新報	○			国際会議 レジリエンスサミット 「仙台声明」を採択し閉幕 観光産業の危機対応提言
11月12日	読売新聞	○			「仙台声明」採択し閉幕 観光産業国際会議
11月12日	朝日新聞	○			災害や感染禍へ 観光の備え議論 仙台で国際会議
11月18日	トラベル ジャーナル オンライン			○	観光レジリエンスサミットを機に危機管理を強化 仙台市、初のマニュアル策定
11月20日	トラベルニュース			○	観光庁 アジア・太平洋地域9カ国招き観光レジリエンスサミット、「仙台声明」を採択
12月24日	トラベルボイス			○	国連の観光レジリエンスサミットを取材した、災害前の投資の重要性から災害後の観光地で必要なことまで
12月25日	トラベルボイス			○	仙台市が策定した「観光特化の危機管理計画」、能登半島地震当日の和倉温泉加賀屋の取り組みから学ぶべきことは？—観光レジリエンスサミットから
12月27日	NHKワールド JAPAN			○	Traveling in Resilient Tohoku Amazing Food, People & Hospitality
合計		17	17	20	

- 国土交通省観光庁ホームページ
“観光レジリエンスサミットのロゴマークを決定！～開催まで、あと50日です～”
https://www.mlit.go.jp/kankocho/news07_00003.html (参照 2024-12-25)
- 国土交通省観光庁ホームページ
“「観光レジリエンスサミット」を東北・仙台にて開催 ～観光レジリエンスの向上に向けて「仙台声明」を採択～”
https://www.mlit.go.jp/kankocho/news07_00005.html (参照 2024-12-25)
- 国連世界観光機関(UN Tourism)駐日事務所ホームページ
“観光レジリエンスサミット シンポジウムを開催しました/Symposium on Tourism Resilience”.
<https://unwto-ap.org/event/tourismresilience/> (参照 2024-12-25)



Tourism Resilience

観光レジリエンスサミット 活動報告書

2025(令和7)年1月 発行

[編集・発行]  仙台市

文化観光局観光交流部観光レジリエンスサミット推進室

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7-1

本文中に記載されている団体名および個人の所属・肩書等は当時のものです。

本書掲載の記事・写真・図版等の無断転載・複製を禁じます。